

30. Ulinastatinによる血管新生抑制効果

外科学 (胸部), 阪大・保健・分子病理

吉井直子, 荻部陽子, 青木秀和, 関 哲男, 田村元彦, 梅津英央, 小林 哲, 石濱洋美, 長井千輔, 三好新一郎, 松浦成昭

【目的】セリンプロテアーゼインヒビターの一つである ulinastatin が血管新生に及ぼす影響について検討した。

【方法】Dorsal air sac assay (DAS法) を用いたマウスにおける血管新生実験およびヒト臍帯静脈内皮細胞 (HUVECs) の浸潤, 遊走, 増殖・管腔形成実験を行った。

【結果】DAS法で肺癌細胞株により誘導されるマウス皮下の血管新生が, Ulinastatin の投与により抑制された。また, HUVECs を用いた検討で, ulinastatin が血管内皮細胞の浸潤・遊走・管腔形成を抑制したことから, これにより血管新生抑制作用がもたらされていると推察される。Ulinastatin は, すでに癌細胞の浸潤・転移抑制効果が報告されているが, 血管新生抑制作用も有することが示唆された。

31. 腎細胞癌における IFN α レセプターの発現様式の検討

泌尿器科学

阿部英行, 釜井隆男, 本田幹彦, 吉田謙一郎

【目的】腎細胞癌における IFN α レセプター (以下 IFNAR) の発現様式とその臨床像との関連について検討を行った。

【対象・方法】1999年11月から2004年3月に当院において, 腎摘除術が施行された腎細胞癌症例61例を対象とし, 癌部と正常部それぞれにおける IFNAR1 および IFNAR2 の mRNA の発現量を real time PCR 法にて定量し, その比 (以下 T/N) を求め, grade, stage, 転移の有無および予後との関連を比較検討した。

【結果】IFNAR1 の mRNA の発現量の T/N は, 各 grade, Low stage と High stage 間および転移の有無に有意差はみられず, 予後においても T/N の高い群と低い群において有意差は認められなかった。一方, IFNAR2 の mRNA の発現量の T/N は, 各 grade, stage および転移の有無で有意差を認め, 予後においても有意差が認められた。

【結論】IFNAR2 の mRNA の T/N は, 予後を推察するマーカーとなりうることが示唆された。